

東日本大震災対策室から

2011年6月15日

「喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。」

(ローマ 12:15)

去る5月24日と6月14日に第3回、第4回の災害対策会議が開催されました。4月の第1次配分に続き、全国から送られた貴い義援金の第2回配分を決定すると共に、今回は対策室のメンバーが直接、被災教会を訪問して、義援金をお届けしてまいりました。併せて、各教会の現況報告を受け、今後の支援体制について、現地でご相談とお祈りの時を持って参りました。

以下にその概要をご報告いたします。加えて今回は、現地の教会からの直接の「声」をお届けいたします。未だ整理もつかず、お礼やおあかしをお送り頂くような状態ではない中から、代表宛、対策室宛、そしてご支援下さっている全国の教会の愛兄弟あてのお手紙を、現地訪問のご報告と共にお送りします。

1. 「震災義援金」の中間報告と、第2次配分について

5月24日までに国内外からお献げ頂いた、義援金の合計は15,990,792円(95件、その内教団外8件、約290万円)が献げられました。前回ご報告いたしましたように、第1回目として、600万円が3教会と被災されたご家族の支援金として送られました。

第2回目として、以下の金額を、今回は直接お届けいたしました。5月26日に田中室長夫妻が水戸・神栖の両教会を、また6月2～3日に田中室長と植木、蔦田両名が盛岡・仙台・郡山・福島の各教会を訪問し、義援金をお届けいたしました。

震災義援金、第2次配分

教会名	教会支援
水戸教会	100万円
神栖教会	50万円
盛岡教会	100万円
仙台教会	100万円
郡山教会	100万円
福島教会	50万円

※なお、今回は全額を配分せず、残額は今後、現地の状況と必要を伺った後、適切に配分することとしました。

その後、6月14日までに更に341万151円が献げられており、現在、約800万円弱が与えられています。この残高に関して、

▽今まで義援金をお送りした諸教会の他に、十和田教会も補修が必要であることがわかり、現在見積の順番を待っておられる郡山教会と共に、必要がわかりしだい、ご支援させて頂く予定です。

▽その他に、今後、被災地の各教会を通じて、近隣の被災教会や地域の教会の復興の働き、聖宣神学院の卒

業生で他教団に属しておられる教会の支援など、またそれぞれの地域への支援の方向を探って参ります。

2. 被災教会訪問のご報告

A. 水戸教会

1. ALCの外壁に割れ目があり、窓の下に亀裂が入っている。
2. 内部のプラスター・ボードも傷み、2階のトイレのパイプもずれている。
3. 本格的に修理すると100万を越えると思えるが、支援金を順次修理に充てていく。

※その後、2階のトイレの水漏れ、風呂場のタイルと壁の修理は終了し、これから会堂の天井、外壁、内玄関のドアの取り換え等があるとのことのご報告を受けました。

B. 神栖教会

1. 会堂は弓なりであったが、玄関はコンクリート、入口等が修理されていた。
2. 窓は目張りされており、床が斜めであるので、教団として会堂を使用しないように指導した。
3. 既に会堂献金として貯えられているものもあり、改築に向けて前向きに検討する。

C. 盛岡教会

1. 会堂自体は大きな損傷はないが、内装と物損被害は大きかった。基礎にも傷みが見られるが、緊急性はないと思われる。外壁や地面などにも亀裂が見られる。
2. 沿岸部の被災状況がひどく、会員の家族や関係者が被災している。
3. 盛岡教会を通じて岩手県内の教会への支援を考えたい。
4. 加えて、十和田教会の現状報告を伺った。老朽化に加え、地震の被害も加わり、修理が必要である。

D. 仙台教会

1. 塩釜支部は直接に津波の被害を受け、汚泥は除去したが、建物が「大規模半壊」の指定を受け、行政によって撤去されるのを待っている。近くの会館が営業を再開したので集会を始めたい。塩釜の求道者方を仙台まで車で送って下さる方も起こされている。
2. 「ひかり荘」(副牧師館)は土砂崩れの危険などがあり、自費で撤去した。通常の撤去費用7~80万円に加え、瓦礫の横須賀(神奈川県)までの搬送料の負担で約300万円を要した。豪雨で土砂崩れの危険があったが、新任の細田師をはじめ教会員方が修復し、土嚢を積んだ。その後、業者によってフェンスが設置され、3~4台分の駐車場として整備された。
3. 被災者のA姉(津波によって住居や、2月に召天されたご主人のご遺骨も喪失)より、公的支援は申請などが煩雑で未だ届かない中、素早い教団からの支援を受け感謝しているとの感謝の表明があった。

E. 郡山教会

1. 隣接のレホボテ館の屋根は瓦をなくして補修した。傾いた隣家は転出され、解体される。
2. 外壁のひびや亀裂は相当な修理となる模様であるが、現在、見積りの順番を待っている状態。
3. 町は落ち着く一方、引き続く原発の問題もあり、先生方や会員方に疲れが見える。被災された会員方が会堂の修理や近隣教会の支援をされているが、その一部を支援することで、教会員の負担の軽減がはかれるかと思う。また、地域の牧師会へ教団から支援できるとよいかと思われる。

F. 福島教会

1. 屋根に損傷はあるが、全体に大きな建物の損傷はなく守られている。教会は借家。
2. 町は落ち着いているように見えるが、郡山同様、原発の問題も続く中、牧師、会員の精神的なケアのためにお祈りが必要と思われる。

以下に郡山教会の久保先生からのお礼状をご紹介します（個人名等の一部を除き、ほぼ全文を掲載します）。他の先生方からも異口同音の感謝が表わされています。

お礼とご報告 本部災害対策室と全国インマヌエル教会の皆さま

2011年6月4日

頌主

全国の皆様のお祈りとご支援に心から感謝いたします。

過ぐる6月3日には、本部災害対策室室長の田中進先生、植木英次先生、蔦田直毅先生が遠路はるばる当教会に來会し、現状をつぶさにご覧の上、さまざまな御励ましやご助言をくださいました。またそのおりに、全国教会の皆様からの義援金として100万円を御捧げくださいました。確かに拝受いたしました。前回に続き、このような過分なご配慮を頂き会員一同心から感謝しております。まことに有難うございました。

既に5月初めに、別館の屋根の全面改修工事を終え252万円を支払うことができましたのも、皆様の義援金のおかげです。会堂の建物も別館も、今なお続く余震で亀裂の数も増え、大きくなっていますが、それは徐々に直したいと考えています。

震災からほぼ3カ月が経ち、原発があるとは言え、私どもも日常に戻っていますので、以下に感謝を申し述べたいと思います。

- ① 今回災害対策室が、全国教会に対して「個人的に被災した教会への電話や物資の送付などは避けるように」という意味の通達を出されたようですが、郡山の場合、それは本当に助かりました。余震と原発におびえつつ足の踏み場も無い惨憺たる家の中で片付けのために途方に暮れている時、それでも親戚や教団外、友人等の電話の応対に追われて、なかなか片づけがはかどらなかつたのが現状です。ですから災害対策室を通して、全国に状況を知らせ、またそこを通して全国からの献金が各被災教会に届くというシステムは、とても助かりました。
- ② 物資は、昨今、どこの都市でも災害に備えて備蓄をしていますし、家庭や教会もそのような心構えでいるところが多いかと思えます。郡山市も早く動き、水は、早いうちから配布されました。物資送付が必要な災害の場所もありますが、郡山の場合は原発で一時外出が困難でした。

しかし家が流されたわけではなかつたので、缶詰などの備蓄品で、しのげました。ただ、教会では、食べ物が無くなりそうな時点で、教会に避難していた人に避難所へ移ってもらいました。公的な避難所には、食べ物があるからです。そのほかで食べ物に困った人は、教会関係では一人もいませんでした。困るころにはスーパーが、開店してくれたからです。

今回、災害に遭って思ったことは、スーパーや飲食店、その他さまざまの職業の人たちがそれぞれの仕事をいち早く再開することが大切だということです。それが復興につながったと思います。教会も、いろいろな仕事がありましたが、まずは人々のたましいのために、集会を普段通りに持つことを優先したことが全体の魂の回復になり、皆さんの具体的な復興の力になったと私は思います。

繰り返しますが、そういうわけで場所によりますが、私どもでは水などの物資の送付はすべて御断りしました。

なお、郡山市内の福音派の教会では、原発で苦しんでいる浜通り(太平洋沿岸)の教会の為に祈祷会を持ち、支援としては現金を送ることが最善であるとの考えで、献金をして送っていますことを付記しておきます。

- ③ なお、原発のためには、課題もあります。たとえば子どもたちは外遊びが出来ない、登校には長そで、帽子、マスクなので、熱中症が心配ですし、庭の土の処理のこともあります。食べ物も安全なのか、わかりませんが、注意すべきことは注意し、なさねばならないことは為す、あとは、主のみ手に委ねて収束の為に祈る日々

です。放射能にもいろいろな考えがありますが、幸い、騒ぎ立てたり、自分の考えを押し付けたりする教会関係者は一人もいませんので、とても助けられています。

現地のためを思い、対策を立て、労してくださっているインマヌエルの対策室と全国の皆様に再度感謝いたします。ありがとうございました。 郡山教会 久保泰昭

3. ボランティア活動などについて

- ▽既に教報などご存じのように、教団からクラッシュ・ジャパンに岩上敬人師、小林佳神学生が派遣され、週2回、全国からのボランティアの受け付け等の業務に、当たっておられます。
- ▽クラッシュ・ジャパン、サマリタン・パースでは引き続きボランティアを募集中です。ホーム・ページから登録が出来ます。各教会の牧師とご相談の上、ご参加ください。こちらは食事、宿舎、シャワーなどはありませんが、原則として教会単位で4～5名、3日程度のチームを組んでの応募となります。
- ▽インマヌエルとしても支援チームの派遣などを検討しています。教会でグループを作ることに人数的な困難を覚えておられる方や、経費のことで困難を覚えておられる方々のためにも、対応を考慮中です。詳細が決まり次第、ご案内いたします。
- ▽先日、お茶の水で行われた被災者へのカウンセリングの講座が公開されています。JEAのホーム・ページから、プリントと録音の音声ファイルがダウンロード可能です。
- ▽ご送金の具体的な方法や会計処理については、前号をご参照ください。

主にありて

東日本大震災対策室

田中 進

植木英次

葛田直毅